

授業作り	重点	・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、各教科において ICT 機器も活用しながら、双方向のコミュニケーションのある授業を目指す。 ・授業を通して、児童が夢中になって学びの対象に関わり、「聴く」こと、「考える」こと、「表現する」ことの3つに重点をおきながら、自分の考えをもつことができる授業づくりを目指す。
環境作り		・クラスの中で、一人ひとりの児童が安心感と他者への信頼を実感できる学級経営を目指す。 ・児童にとって見通しのもてる授業設計と、それを可能にする教室環境（ユニバーサルデザインの視点）を整備する。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		・経験したことや想像したことをもとに、自分の考えを話す力が必要である。 ・積極的に発言できる児童が多いが互いの話を聞く力が必要である。 ・具体物を用いた活動を通して、数についての感覚を豊かにしている一方で、様々な形式の問題への応用力が身に付いていない状況である。	① 文章の内容と自分の経験を結び付けた発表 ② 相手の発言に対し尋ねたり応答したりする活動 ③ デジタルドリルを活用した繰り返し学習
2 学 年		・読み書きができるようにするために、正しい文字の形を捉えて書くことや正しい筆順で書く意識を形成する必要がある。 ・加法、減法、乗法の定着のために、補充問題に取り組む必要がある。 ・数学的な表現を確実にするために、加法、減法、乗法が用いられる場面を式に表したり、場面を絵や図で表したりする必要がある。	① 紙ドリルやデジタルドリルの活用 ② 基礎的な計算練習の日々の取り組み ③ 具体物の操作や絵や図を意識的に描く授業の展開
3 学 年	・書字については、拗音や濁音の習熟に個人差がある。ワークテストの状況を見ると、漢字の書き取りや書き順に誤りがあり、まだ十分身に付いていない状況である。 ・加法や減法の計算の定着には、個人差がある。「図形」「測定」の領域において、直接操作する活動での、比べるものの理解が足りていない。	・作文等の文章を書く機会を増やし、考えたり、書いたりすることに慣れる。 ・計算の決まりを正しく理解し、正確に計算できる力が必要である。 ・個々の課題や進度に応じたプリントやドリルパークなどの学習を進め、着実に力をつける必要がある。	① 児童一人一人に即した課題の設定 ② デジタルドリルの活用 ③ 具体物の操作を取り入れた学習 ④ 小集団学習と個別学習の充実 ⑤ 基礎的な計算練習の日々の取り組み
4 学 年	・国語・算数ともに、全体的に全国平均を上回っている。 ・自分の意見を論理的に組み立て、相手意識をもって表現する力の育成が必要である。 ・身の回りにあるものの量感や、単位換算が苦手な児童が多い状況である。	・自分の思いが相手に伝わるように、要点をおさえて表現する力をつけていく必要がある。 ・発表の際の態度・姿勢・話し方など、経験を積んでいく必要がある。 ・長さや量などの単位ごとの量感を養い、イメージできるようにしていく必要がある。	① 読書等の環境整備や新聞の活用など、文に触れる機会の設定 ② 互いに評価しあうための、発表の場面の設定 ③ 具体物の提示
5 学 年	・国語・算数ともに、全体的に全国平均を上回っている。 ・学力差が大きく、四捨五入が苦手な児童が多い。 ・読み取る力は高いが、書き取りや話を聞き取ることが苦手な児童が多い。	・基礎基本を身に付け、自律して学習に取り組むことができるよう意識する必要がある。 ・文章を組み立てたり、話を聞く際に要点を見つめたり、言葉を正しく遣う力を身に付けたりする。	① 既習事項を確認する時間を設け、学習に見通しをもたせる ② 下書きを書いたり、聞くポイントを指導し、計画性をもって言葉を遣ったりするよう指導する
6 学 年	・国語・算数ともに、全体的に全国平均を上回っている。 ・普段使う機会の少ない言語が身についておらず、感覚で文章の構成を把握している児童が多い状況である。 ・基礎的な計算技能や図形の性質の理解に課題がある。	・接続語や指示語、段落の意味を考えさせながら、文章構成を考える力を伸ばす必要がある。 ・基礎的な計算方法を都度確認し、確実に定着できるようにする。 ・「答えが出たら終わり」と考えている児童が多いので、よりよい解法を常に考えさせる。	① ペア学習またはグループ学習を通して、根拠をもって自分の考えを説明する機会を増やす ② デジタルドリルの活用 ③ 児童一人ひとりに即した課題の設定、放課後補習での対応

特別支援			
------	--	--	--